## 牛久:学校周辺に見る自然

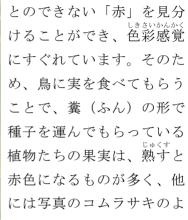
第43号 ひたち野西近隣公園

2011年10月10日発行

## く 残暑厳しい水辺公園を歩く ~その3. 木の実も育っています >

残暑の水辺公園。今回は、木の実に注目。昨年、4年生の皆さん(現5年生)と楽しんだアキグミは、今年はあまり実の着きがよくありませんが、どんぐりをはじめ、たくさんの木の実が大きく育ち熟し始めています。 まずは、鳥たちが好んで食べる木の実から。鳥たちは、多くの昆虫が感じるこ







うな紫や、サワフタギの青など、やはりめだつ色をしています。広場から池に向かって歩き、パッと見上げて目についたのが、ゴンズイの赤でした。さらにゆるい坂をおりると、左手にコブシの実が割れて、赤い種子が顔を出していました。落ちている実があったら、種子をつまんで静かに引っぱりだしてみましょう。細い糸のようなものがつながって出てきます。落ちなければ、種子はこの糸にぶら下がり、鳥たちを誘っていたことでしょう。

赤い果実と、熟して顔を出した黒い種子とのコントラストが美しいゴンズイ(ミツバウツギ科:左上)。 「にぎりこぶし」のような果実が割れて、赤い種子が現れたコブシ(モクレン科:右上)。 枝のもとの方の果実から、だんだんと紫色に色づいていくコムラサキ(クマツヅラ科:下)。



広場から池のまわりの道におりて、遊具のある方へ歩いていくと、あずま屋の少し手前にヌルデが枝を広げています。熟すと白い粉を吹き、鳥がこれで塩分補給をするそうです。なめてみると、確かにしょっぱいような、すっぱいような味がします。リンゴ酸カルシウムという物質で、調味がとして利用したこともあるそうです。ただし、樹液でかぶれる人もいるようですから、肌の敏感な子は特に注意しましょう。



ヌルデの白い花が咲いて(下) 1 週間後、若い果実はかっ色を帯びてきました(上)。

他のウルシ科植物と比べれば、それほど強くはありませんが、樹液に触れるとかぶれることがあります。



↑大きく育ったが、まだ緑色のコナラのどんぐり。

コナラやシラカシのどんぐりはまだ緑色をしたものが多いですが、クリやクヌギは10月に入ってもう落ち始めています。また、コナラやシラカシは今年の春に咲いた花が実になっていますが、クヌギは昨年の春に咲いた花が、今になって熟しています。ざぶとん(殻斗:かくと)のもようもそれぞれで、同じように見える「どんぐりの成る木」も、よく観察すると、いろいろと違っています。22年度46号でも説明しましたが、また機会をみて、「どんぐり特集」でも組んでみようかと思っています。

←大きなクリの実ができる木 (左) と、 小さいクリの実ができる木 (右) があり ます。

大きい方は、たぶん後から植えたもので しょう。小さい方は、もともとの林に育 っていたのではないかと思っています。





果実についた翼で、風にのって 運ばれていく種子もあります。左 のシデ類もそうです。公園にはア カシデとイヌシデの両方がみられ ますが、どこが違うか分かります か?写真では小さくて分からない と思いますが、ヒントは果実につ

いた翼の形と、葉の脈です。機会があれば、実物で確かめてみましょう。

よく似たアカシデ(左)とイヌシデ(右)。実につく翼の形と葉の側脈の数が違う。



公園内の林には、見上げるような背の高いネムノキがあります。ふだん、それほど高くなく、お日様の光をいっぱいに受けるように枝を広げた姿を見なれていたので、意外な感じがしましたが、図鑑を開いたら、「高さ10mほどになる落葉高木」とありました。一目でマメ科と分かる果

実は、緑からかっ色に変わってき ていました。

↑公園内の、背の高いネムノキ。マメのさやは、緑からかっ色に変わってきました。

針葉樹の実は、正しくは「果実」と呼べませんが(中学校で学習します)、サワラの実が、大きくなっていました。中では翼をもった種子が育っているはずです。 【理科支援員 宮内】 大きく成長したサワラ(ヒノキ科)の実→

